



絵本「どんなかんじかな」、人権尊重は違いを認めることから

校長 橋本 滋

2学期のまとめの月12月を迎えました。「おはようございます」声といっしょに白い息が見えるようになってきました。そして冬晴れの真っ直ぐな日差しが子どもたちの顔をより輝いて見せてくれます。「大東っ子まつり」では、実行委員さんをはじめ本部役員・育成会の皆様のお力により、大成功のうちに終了することができ、改めて感謝申し上げます。

12月は、人権週間が定められている月でもあります。国連で世界人権宣言が採択され、その日の12月10日を「人権デー」と定めたことが基になっています。日本では、毎年12月10日を最終日とする1週間を「人権週間」に定めています。今年の啓発活動重点目標は、「みんなで築こう 人権の世紀 ～考えよう 相手の気持ち 未来へつなげよう 違いを認め合う心～」です。「違いを認め合う心」という言葉自体は容易に理解できる言葉ですが、それが具体的な場面になると簡単なことではないと思います。そのためには、正しい知識や学び、経験、そしてその意識をもたなければできないことであると思います。「人権意識」は自然に育つものではなく、育てるものであると思います。本校においても「指導の重点」の一つとして、全教育活動をとおして指導しております。

さて、「違いを認める（理解する）」について触れているこんな絵本がありました。題名は、「どんなかんじかな」です。（自由国民社 中山千夏・文 和田誠・絵）この本の最後のページを開くとだれもが「そうだったのか!」と納得する。そんな絵本です。（本校の図書室にもあります）

簡単に内容に触れますと、主人公は「ぼく」です。こんな書き出して始まります。

ともだちの まりちゃんは めがみえない。／それで かんがえたんだ。／みえないって どんなかんじかなって。／しばらく めをつぶっていたら わかるかもね。・・・略・・・

「ぼく」は、目の見えないまりちゃんを感じを知るためにめをつぶってみます。そして、まりちゃんに、「みえないってすごいんだね。／あんなにたくさん きこえるんだものね。／みえるって そんだね。／ちょっとしか きこえてないんだものね」

次に、耳の聞こえない「さのくん」を感じを知るために「ぼく」は、耳栓で音が聞こえないようにします。そしてさのくんに、「きこえないって、すごいんだね。あんなにたくさん みえるんだものね。／きこえるって そんだね。ちょっとしか みえてないんだものね。」といいます。このあと別の友達の「きみちゃん」が「ぼく」に言います。「わたしね、いちにちじっと うごかないでいてみたの」「どんなかんじかなあ、とおもって」そしてきみちゃんは「ぼく」にこう言います。「うごけないって、すごいんだね。（中略）いつもの ひゃくばいくらい いろんなことかんがえたよ。だから、ひろしくんは、がくしゃみしたいんだね」ぼくは、てれくさくて、ただわらった。／そうかもね。うごけないって、すごいことなのかもしれないね。／ぼくって、すごいのかもかもしれないね。・・・略・・・もうお分かりでしょうが主人公であるぼくは脚が不自由です。

そして「違いを認める心」で真っ先に浮かぶのは「金子 みすゞ」さんの「すずと、小鳥と、それからわたし」という詩の「みんなちがって、みんないい。」という言葉です。人それぞれ、その人自身の代わりはできません。その人だからこそ尊いのだと思います。自分も他人も大切にできるそれが人権を尊重することだと思えます。そんな「ひとづくり」を目指しこれからも指導していきたいと思えます。ご協力の程よろしく願います。



